



目 次

行事予定

- ・ 第2回 基礎分析化学実習 . . . . . p. 2  
「電子回路の基礎の基礎」
- ・ 第3回 提案公募型セミナー . . . . . p. 2  
「銅の腐食解析にまつわる最近の話題」
- ・ 第2回 支部講演会 . . . . . p. 3

報 告

- ・ ‘06年度 第2期 近畿分析技術研究国際交流助成  
12th Conference on Total Reflection X-Ray Fluorescence Analysis and Related Methods  
(TXRF2007) . . . . . p. 3
- 2nd International Symposium on Macrocyclic and Supramolecular Chemistry  
. . . . . p. 4
- Goldschmidt 2007 . . . . . p. 6
- ・ 第4回基礎分析化学講習会 . . . . . p. 7
- ・ 第54回機器による分析化学講習会 . . . . . p. 8
- ・ ‘07年度 第1回基礎分析化学実習 . . . . . p. 10
- ・ 「ぶんせき秘帖 巻ノ一」 . . . . . p. 11
- 日本分析化学会近畿支部 第1回平成夏期セミナー

行事予定  
**第2回 基礎分析化学実習**

**「電子回路の基礎の基礎」**

主催：日本分析化学会近畿支部・近畿分析技術研究懇話会

協賛：近畿化学協会・日本化学会近畿支部

日時：平成 19 年 10 月 11 日(木)13:00～15:00

会場：紀本電子工業（株）会議室

[ 大阪市天王寺区舟橋町3-1 ] <交通> JR環状線「鶴橋」駅下車、北へ徒歩約5分。

<http://www.kimoto-electric.co.jp/> をご参照下さい。

内容：基本的なオペアンプによる増幅変換回路の働きを学んだ後、回路を自作し検証する。

講師：紀本武志（紀本電子）ほか。

費用：参加費：一般2000円、学生1000円（近畿分析技術研究懇話会会員無料

機材費：7000円程度（実習後持ち帰り）

参加人数：10 名程度（先着順）

申込方法：(1)氏名（ふりがな）勤務先、所属、(2)連絡先(郵便番号、所在地、電話、FAX、E-mail)、(3)会員資格の有無を記入のうえ、下記宛に FAX または E-mail でお申し込みください。

申込先：社団法人日本分析化学会近畿支部

〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4 大阪科学技術センタ - 6F

[電話(06)6441-5531, FAX(06)6443-6685, E-mail: [mail@bunkin.org](mailto:mail@bunkin.org)]

<http://www.bunkin.org/>

世話人：〒543-0024 大阪市天王寺区舟橋町3-1

紀本電子工業（株）紀本岳志

[ FAX : 06-6764-7040 、 E-mail : [tkimoto@kimoto-electric.co.jp](mailto:tkimoto@kimoto-electric.co.jp) ]

**第3回 提案公募型セミナー**

**「銅の腐食解析にまつわる最近の話題」**

主催：日本分析化学会近畿支部・近畿分析技術研究懇話会

協賛：腐食防食協会関西支部

日時：平成 19 年 11 月 13 日(火)14:00～16:30

会場：住友電気工業（株）大阪製作所西 206 会議室

[大阪市此花区島屋 1-1-3]

内容：銅は実用的な金属として古くから用いられてきたが、腐食反応の理解は十分ではないように思われる。銅の腐食・防食を始め、銅全般に造詣の深い元北大・能登谷先生が最近の話題を紹介する。さらに、最近開発された腐食解析を目的とした新しいボルタンメトリ法についても紹介する。

講演テーマ・講師：

1. 銅に関する最近の話題（14:00～15:30）（日本伸銅協会・元北大）能登谷武紀
2. 銅表面の定量的な状態分析法（15:50～16:30）（住友電工）中山茂吉

参加費：無料

申込締切：定員（50名）に達し次第締切

申込方法：用紙に(1)氏名（ふりがな）、勤務先、所属、(2)連絡先(郵便番号、所在地、電話、FAX、E-mail)を明記のうえ、下記宛に FAX または E-mail でお申し込みください。参加証は送付いたしませんので、直接会場にお越し下さい。

申込先：社団法人日本分析化学会近畿支部

〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4 大阪科学技術センター - 6F

[電話(06)6441-5531, FAX(06)6443-6685, E-mail: [mail@bunkin.org](mailto:mail@bunkin.org)]

<http://www.bunkin.org/>

問合せ：住友電気工業（株）中山茂吉

[ 電話：06-6466-6508、E-mail：[nakayama-shigeyoshi@sei.co.jp](mailto:nakayama-shigeyoshi@sei.co.jp) ]

## 第2回 支部講演会

共催：日本分析化学会近畿支部・近畿分析技術研究懇話会

日時：平成 19 年 12 月 7 日（金） 15 時～17 時

会場：大阪科学技術センター 小ホール（大阪市西区靱本町 1-8-4、電話：06-6443-5324、

交通：地下鉄四ツ橋線「本町」駅下車、北へ徒歩約 7 分。うつぼ公園北詰）

講演：

1. 「低粘性フッ化物イオン液体の性質と応用」

（京都大学大学院エネルギー科学研究科） 萩原理加

2. 「イオン液体の真空系への導入による新しい分析法と材料創製法開発」

（大阪大学大学院工学研究科） 桑畑 進

参加申込方法：用紙に「第2回支部講演会参加申込」と題記し、1) 氏名、2) 勤務先、3) 連絡先（郵便・電話番号）をご記入のうえ、下記宛にお申し込み下さい。参加証は発行致しませんので、直接会場にお越しください。

申込先：〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4 日本分析化学会近畿支部 [電話：06-6441-5531、Fax:06-6443-6685、E-mail:mail@bunkin.org]

## 報 告

### 『06年度 第2期 近畿分析技術研究国際交流助成』

#### (その1)

12th Conference on Total Reflection X-Ray Fluorescence Analysis and Related Methods (TXRF2007)

国村伸祐（京大院・工・D1）

イタリア・トレント(2007.6.18 ~ 22)

TXRF2007は全反射蛍光X線分析法による装置、装置構成要素、様々な応用例等に関する発表および討論を目的とする国際会

議である。今回はイタリア北部の都市トレントでの開催であり、トレント中心部からバスで十数分ほどのFBK-irstという研究

所が会場であった。イタリア北部ということもあり、トレントは山に囲まれた景色の美しい町であり、山の中に位置する会場からは、ぶどう畑やのどかな町並みといった風景を楽しむことができた。イタリア特有(?)の真っ青な空から降り注ぐ日差しも心地良いものであった。



FBK-irst

国際会議での発表は今回で二回目であり、今回も口頭発表を行った。2005年秋に初めて国際会議(@イタリア)で口頭発表した時には緊張のあまり落ち着いてははっきりと発表することができず、残念な思いをした。そんな苦い経験もしたが、今回の発表では何故かあまり緊張することもなく、まだまだ未熟であるが、自分なりに満足いく発表をすることができた。しかし、質疑応答においては自分が想像していた以上に英語がうまく聞き取れず、その場で十分に討論できなかったことが非常に残念であった。質疑応答の場で堂々と英語で討論できるようになるべく、今後もどんどん国際会議に参加したいと思った。そして、そのためにも今後精力的に研究を進めていかなければと思った。自分の発表があっ

たセッションは学会二日目と早めに終了したので、その後は他の研究者の方々の発表を聴いたり、FBK-irst内の研究室見学をしたり、学会主催の遠足、ディナーにも参加したりと、のんびり学会を楽しむことができた。また、今まで論文を読み名前だけ知っていた海外の研究者と会話や討論をすることもできた。学会終了後には空港のあるミラノに向かわなければならなかったが、電車のストがその日にあり、結局チリからの研究者が運転するレンタカーにアルゼンチン、フランスからの研究者とともに乗せてもらい、国籍も母国語もバラバラな四人でミラノに向かうというなかなか面白い体験もした。このように今回の会議で得られた貴重な経験を今後の研究生生活に生かせるよう、今後も頑張っていきたいと思う。



遠足にて

最後に、このような素晴らしい機会を与えて頂いた日本分析化学会近畿支部の方々に深く感謝する。

(その2)

「第2回 International Symposium on Macrocyclic and Supramolecular Chemistry に参加して」

宇田 亮子 (奈良工業高等専門学校・物質化学工学科・准教授)

Italy, Salice(2007. 6. 24 ~ 28)

International Symposium on Macrocyclic and Supramolecular Chemistry は、大環状化学国際シンポジウムと超分子化学国際シンポジウムが合同となって行うシンポジウムであり、その2回目に参加した。場所は、イタリアのミラノから鉄道で2時間弱のところにある Salice という保養地で行われた。シンポジウム初日は、Th. A. Kaden 博士の大環状化合物の歴史をたどった基調講演から始まった。その後、organizer から地元のワインとサラミの十分なプレゼンテーションがあった後、ウエルカムビュッフェとなった。2日目は、S. Shinkai 先生の基調講演があり、単一分子同士の認識からより大きな分子の認識について研究することの重要性が強調された。ナノ粒子用いてのセンシングについて、F. Mancin 博士の “Self-Organized Fluorescent Nanosensors For Ratiometric Pb( ) Detection” や R. Nishiyabu 博士の “Nucleotides as Building Blocks for Lanthanide Based Nanoparticles” の2件の発表があり、ナノ粒子による超分子化学の展開を感じる事ができた。夕刻、地元の4種類のワインについての丁寧なプレゼンテーションの後、それらを楽しみながらのポスターセッションとなった。当然、参加者たちの舌も滑らかとなり、盛んなディスカッションが行われた。ほろ酔い気分となったところに、non-scientific プログラムとして organizer の L. Faabrizzi 先生による “communicating with Symbols-From Alchemy to Chemistry” の講演があり、ヨーロッパの歴史的な建築物で目にする記号と、科学的な意味・元素記号との関連について話された。これが終わったのは夜の11

時であった。3日目は、J. F. Stoddart 博士の基調講演から始まり、カテナンを用いたエレクトロケミカルスイッチングとメモリーへの応用の話があり、大環状化合物のナノエレクトロニクスへの展開が感じられた。さらに夕刻にはポスターセッションがあり、前夜と同様ワインとサラミで盛り上がった。



Pavia 大学講堂

4日目午後は、Social Program として Pavia 大学を訪問した。Pavia は学会会場となった Salice からバスで1時間、大きな都市ではないが歴史を感じさせる雰囲気の良い町であった。大学の内の講堂を見学し、いたるところに(先日の L. Faabrizzi 先生の話にあった) “薬” のシンボルを目にし、Pavia 大学の歴史的背景を知ることができた。

最終日には、Izatt-Christensen Award

2007 を受賞した D. A. Leigh 博士の講演 ” Exercising demons: synthetic molecular motors and machines ” や、ノーベル賞受賞者の J.-M. Lehn 博士の講演があり、シンポジウムは閉会した。夕刻には晩餐会が行われた。L. Faabrizzi 先生のスピーチの後、organizer 達の粋な( ? ) 計らいで、著名な先生方がマイクを持ち全員でフニクリフニクラを歌い、非常に陽気な雰囲気を楽しむことができた。



晩餐会

### (その3)

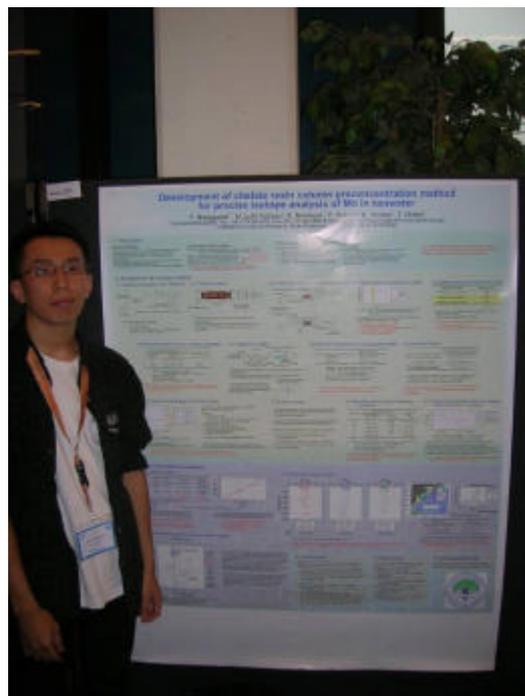
Goldschmidt 2007 ドイツ・ケルン 2007.8.19 ~ 24

中川 裕介 ( 京都大学・理学研究科化学専攻水圏環境分析化学分科・D1 )

ドイツ・ケルン(2007.8.19-24)

ドイツのケルンで開催された Goldschmidt 2007 に参加してきました。ゴールドシュミット国際会議は、地球内部・地球表層の組成と物質循環、大気・海洋の組成と物質循環、気候変動、環境汚染、生物地球化学、宇宙物質と地球の形成等の幅広いテーマや、これらの研究を進めるにあたって必要な分析法や実験法を対象とした、地球化学の総合的国際研究集会です。今回の会議は、全部で約 2360 件の発表( 口頭発表約 1270 件、ポスター発表約 1090 件 ) がありました。

今回、私は、 ” Development of chelate resin column preconcentration method for precise isotope analysis of Mo in seawater ” という題目で、ポスター発表を行いました。内容は、精密同位体分析を行うための海水中 Mo の定量的かつ選択的な濃縮法を新たに開発し、それを北西太平洋へ応用し海水中 Mo 同位体組成の鉛直分布を明らかにした、というものです。発表は 21 日の 17:30-19:00 のコアタイム内で行いました。海洋を話題とした発表が全体



の中で少なかったため、あまり注目してもらえないのではないかと心配しましたが、多くの方と質疑応答、意見交換を行うことができました。特に、Mo の精製法としてイオン交換法ではなくキレート樹脂カラム濃縮法を用いている点が独創的だと興味

を持ってくれる方が多く、自分の研究に充実感を得ることができました。ただ、自分の思っていることをなかなか相手に英語で伝えることができず、十分な議論ができなかったのが残念でした。自身の英語力不足を改めて思い知り、語学の勉強の必要性を痛感しました。

本国際会議では Mo 同位体研究で著名な Ariel D. Anbar 氏 (Arizona State University) の講演を拝聴できたことが最も貴重な体験でした。Corey Archer 氏 (University of Bristol) の講演では、河川中の Mo の同位体組成が今まで考えられてきたものと異なることを指摘しており、

自分の研究に大きく影響を与えるものでした。また他の研究者の講演も興味深いものが多く、大変刺激になりました。今回の会議は私にとって初めての国際会議で見えるもの聞くもの全てが新鮮で、日本の学会にはない雰囲気味わうことができました。ここで得た経験を今後の研究に生かし、よりいっそう努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えていただきました日本分析化学会近畿支部の方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

## 第4回 基礎分析化学講習会

日時：平成 19 年 6 月 22 日 (金) 13:00 ~ 16:30

会場：大阪市立大学文化交流センター 会議室

主催：日本分析化学会近畿支部、近畿分析技術研究懇話会

協賛：日本化学会近畿支部

基礎分析化学講習会として、3名の講師の方にお越しいただき、基本的な器具、化学分析に欠かせない測定装置の使用法・原理について、3人の方に各 1 時間のご講演をいただきました。

1. 基本器具の原理と取り扱い方  
(ピペット、メスフラスコ、電子天秤):

茶山 健二氏 (甲南大学理工学部)

主としてメスフラスコ、ホールピペット、マイクロピペットの取り扱いと実際の操作方法を、ビデオを活用しながら解説していただきました。メスフラスコ、メスシリンダー (受用)、ホールピペット (出用) の違いや、器具に刻印されている記号の意味を改めて認識する機会となりました。

2. 可視紫外分光器の正しい使い方:  
杉岡 幹生氏 (株)島津製作所)

汎用的な分析機器である紫外可視吸光検出器について、その構造から特徴まで解説していただきました。シングルビーム、ダブルビームの違い、普段測定しているときには留意することの少ないスリット幅と波長分解能の関係や、迷光についても話を聞くことができ、さらに有機化合物の構造と吸収波長の関係、固体試料の反射、透過測定など、応用に関しても幅広いお話をうかがうことができました。

3. pHの正しいはかり方:

西尾 友志氏 (株)堀場製作所)

ガラス電極による pH 測定の原理を説明したあと、pH 測定器をスクリーンに映しながら、電極の校正について壇上で実演していただいた。電極のメンテナンス、洗浄法、高精度測定のための電極のバリエーション

ョンなど、使用者が知りたい情報について解説いただきました。

#### 4. 質疑応答

全講演終了後に30分間の質問時間をもうけましたが、会場から積極的な質問をう

け、かなり時間を超過することになりました。参加申込者も56名を数え、基礎分析化学講習会の必要性を改めて認識しました。

(滋賀県立大学環境科学部 丸尾雅啓)

## 第54回 機器による分析化学講習会

日時：平成19年7月19日～20日

会場：京都大学吉田キャンパス

主催：日本分析化学会近畿支部、近畿分析技術研究懇話会

2007年7月19日、20日に京都大学吉田キャンパスと桂キャンパスにおいて表記の講習会が行なわれました。高速液体クロマトグラフィー、キャピラリー/マイクロチップ電気泳動、質量分析法(GC-MS、LC-MS)、原子スペクトル分析(前処理法含む)、蛍光X線分析とX線回折、マイクロ波による蛍光試薬の迅速合成実験の6科目、受講生56名、各科目講師・機器分析メーカーからの指導員など合わせて総勢約100名の事業となりました。この機器分析講習会は半世紀以上に京大から始まったそうです。最近の10年ほどは大阪電気通信大学と大阪工業大学で開催されてきました。7月20日には近畿支部幹事会が同じ建物で開催され、44名の幹事による講習会見学も行なわれたので、150名ほどが何らかの形で講習会会場へ足を運ぶ講習会となりました。

今回の講習会は、前年の大阪薬科大学の藤田芳一先生を実行委員長、大阪工業大学を会場(渋谷康彦先生)とした講習会が成功したことを受けて、すべてにおいて前年を踏襲する形で計画しました(科目、講習

会費、規模など)が、マイクロ波による実験を増やそうということになり、6科目で講習会を行いました。

一方でテキストを化学同人から出版する計画を同時に進めています。昭和30年代に「機器分析実験法」というテキストを日本分析化学会近畿支部編集で化学同人から出版しましたが、その現代版を出版するという計画です。今回も近畿支部の編集によって、教科書を同時に執筆しようということになりました。市販される教科書と講習会テキストとはどうしてもなじまない部分があり、出版計画は遅れていますが、今年度中の出版を目指して鋭意進行中です。

学生実験室を提供していただいた京都大学大学院工学研究科材料工学専攻、桂キャンパスAクラスター大塚研究室、上記のように編集作業が進まないため急遽テキスト印刷を1週間で仕上げの上で骨を折っていただいた近畿支部事務局と印刷会社、機器メーカー各社、各科目主任・副主任の皆様へ感謝いたします。(第54回機器による分析化学講習会 実行委員長 河合潤)



写真 1 . マイクロ波による蛍光試薬の迅速合成実験



写真 2 . マイクロ波による蛍光試薬の迅速合成実験



写真 3 . 近畿支部幹事会の前の見学

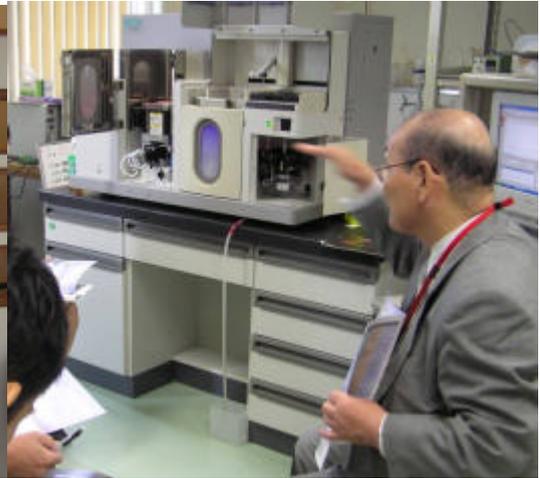


写真 4 . 原子スペクトル分析



写真 5 . 原子スペクトル分析

写真 6 . 原子スペクトル分析の前処理法



写真 7 . 高速液クロマトグラフィー



写真 8 . 高速液体クロマトグラフィー



写真 9 . 質量分析法



写真 10 . 質量分析法



写真 11 . 蛍光 X 線分析



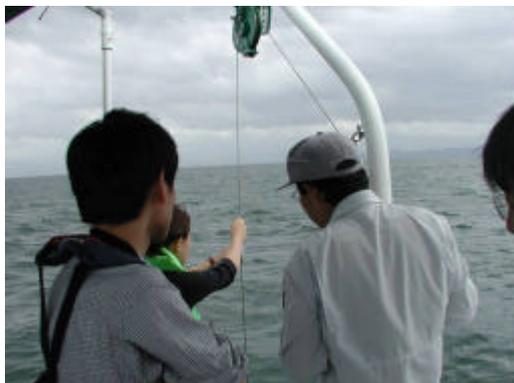
写真 12 . X 線回折実験

## 2007 年度 第 1 回 基礎分析化学実習

「水圏における試料採取、処理」

日時：平成 19 年 8 月 3 日（木）9:00 ~ 13:30

会場：滋賀県立大学湖沼環境実験施設および実習調査船「はっさか」



2007 年 8 月 2 日（木）滋賀県立大学湖沼環境実験施設（滋賀県彦根市）において、日本分析化学会近畿支部が主催する今年度最初の基礎分析化学実習“水圏における試料採取、処理”が開催された。琵琶湖における実際の試料採取を行うため、通常の講習会、実習とは異なり午前 9 時から開始となった。遠方での実施にもかかわらず、定員 15 名に対し 14 名（当日欠席 1 名）から申込があり、参加者の意欲をうかがわせた。

当日は台風 5 号が接近中で風がいつもより強く、施設内の実験室にてまず試水採取の基本である採水器について説明を行った。次に試料水の保存容器について材質の異なるプラスチック容器を実際に示し特徴と用途を知ったうえで、測定目的成分による使い分けを理解していただいた。試料のろ過に用いるメンブランフィルターについても同様の注意が必要であることを説明した。

湖の状況が安定したので出港し、水深 30 m 地点にて実習を行った。湖沼でよく用いられるバンドーン採水器を用い、採水器の原理を説明し、セッティング、メッセージャーの投入を行い、水深を変えて表層、深層の水に触れ、湖水が水温によって密度成層することを実感していただいた。



次に湖の底質について、KK 式の採泥器を用いて 10 cm ほど堆積物コアを採取し、酸素に触れるため赤みを帯びた泥の表面、還元的で黒色の泥の層を見てもらい、採泥器から抜き取ったあとにはこれに触れてもらった。最後にプランクトンネットで動物プランクトンを採取し、実験室に持ち帰った。実験室では実体顕微鏡を用いて琵琶湖に生息するプランクトンを観察、同定した。比較的早めに帰港したにもかかわらず、予定時刻まで熱心に観察される方が多かった。現場の機器や作業を経験したことを研究の参考にしていただければ幸いです。

良好な条件ではなかったことは残念ですが、施設の海外文一郎技師の的確な判断で出港、一連の作業を行うことができました。この場を借りて感謝申し上げます。（滋賀県立大学環境科学部 丸尾雅啓）

## 「ぶんせき秘帖 巻ノ一」

### -日本分析化学会近畿支部 第1回平成夏期セミナー-

日時：平成19年8月10日(金)12:00～12日(日)12:00

会場：神戸市立 神戸セミナハウス

日差しの強いお盆前の週末、緑深き神戸の北区において、「ぶんせき秘帖 巻ノ一」が開催されました。このセミナーは、分析化学会近畿支部が主催し、分析に関係する研究者間の交流を目的として行いました。これまで、近畿圏内の学生、若手研究者が集う夏のセミナーが久しく開催されていないということで、不安を抱えながらの開催となりましたが、その不安を完全に払拭するかのよう、各大学・企業から、多数ご参加いただきました（参加者総数 68名：学生 38名、一般 30名）。参加者の構成で印象的だったのは、大学の若手研究者だけではなく、企業に就職した各研究室のOBの方なども多数参加いただいたことです。また、近畿支部会員全員に案内をお送りしたこと、ポスターを配布したこともあり、3回生の学生の参加もありました。



今回の2泊3日のセミナーでは、6件の依頼講演、2回に分けたショートプレゼンテーション・ポスターセッション、学生企画がありました。講演は、1日2件、質疑応答を含めて約1時間程度、ゆったりしたスケジュールで行いました。研究戦略につ

いて分かりやすく話していただいたのは、トップバッターの兵庫医療大学薬学部前田初男先生（「百聞は一計測にしかず・蛍光プローブの巻」）。蛍光プローブ分析の初歩の初歩から、有効な蛍光プローブを合成するために、どのような戦略で分子設計していくかを詳しく話していただきました。最後に出された兵庫医療大学の写真はかなり印象的でした。参加者の多くが、「ぜひ、兵庫医療大学でセミナー開催を・・・」と思ったことだと思います。最も裏話満載だったのは、大阪府立大学大学院工学研究科 久本秀明先生（「化学センサーからマイクロリアクター・マイクロ分析システムへ～ご縁をEnjoy、研究Life!～」）のご講演。その時々と一緒に仕事をされた方の顔写真とセリフを混ぜながら、なぜマイクロリアクターを始めたか？などのいきさつを楽しく話していただきました。裏話については、ここで詳しく書けませんので、参加者の方にそっとお聞きください。研究者のみならず、ブログ等を通じて一般の方にも有名な講演者は、なんととっても、近畿厚生局麻薬取締部 津村ゆかり先生（「薬



物犯罪を立証する分析--麻薬Gメンの活躍--」、大阪大学サイバーメディアセンター菊池 誠先生、「ニセ科学問題」)のお二人。ぶんせき秘帖に講演していただいた後、「ぶんせき秘帖」のキーワード検索をすると多数のサイトに引用されていました。津村先生は、実際に麻薬分析をされている方。「麻薬とは・・・“法律で定められている薬物”であり、何らかの薬理効能で区別されているわけではない」など、麻薬に関する社会事件や法律の話を織り交ぜた興味深いご講演をしていただきました。一番質疑応答が多かったのが菊池先生のご講演。「科学の世界でも偽がある」など参加者からいろいろな意見がでましたが、討論を通じて、菊池先生、参加者の見解が一致したことは、「二分的思考(偽か真か?)の危



険性」でした。このような思考が流行るのは、他人の意見を丸飲みして、考えることを放棄することが多くなっているからではとの指摘がありました。これと対極的なご講演をされた方が、紀本電子工業(株)紀本岳志先生。一言でいうなら、“はかってなんぼ(まずは測って調べてみる!)”が大事。科学がはじめてまだ200年程度、無知を認めて測定結果から自由に思索してもいいのではというご講演でした。あとで、関東出身の学生から“はかってなんぼ”はHow much money....という意味かと思っていました」とのウィットに富んだコメントもありました。博士課程の学生が

ら「将来に対して不安を感じている」との質問がでたのは、京都大学大学院工学研究科河合 潤先生(「ポストクの勧め」)の講演での質疑応答でした。それに対する河合先生の返事は、「将来不安定の方が、冒険できて面白いじゃあないですか!」。そう簡単にはいかないことを承知の上で、細かいことに気をとられずに、研究を楽しんでください!と学生にエールを送るご講演でした。

セミナー参加者には、講演を聞くだけでなく、発表や企画をしていただきました。ショートプレゼンテーションでは、一日目、二日目に分けて行った結果、途中参加の方



も含めてほぼ全員が行うことができました。化石になりつつある OHP フィルムを用いて、自己紹介を兼ねて自分の研究目的あるいは研究室の紹介。中には、マジックペンを用いて手書きで急ぎ作成された方も...。ポスターセッションでは、約25件程度の発表がありました。ビールを片手に、気さくな雰囲気でお互い様々な議論ができたようです。セミナー終了後に行ったアンケート結果で、もっとも印象的な企画として1位に挙がっていたのは、学生企画でした。この企画は、2日目懇親会(バーベキュー)後、夜の20:00から1時間半行ったものです。名前のとおり、企画は学生が行いました。趣向を凝らしたクイズ大会で、一般、学生の区別なく、チームに分かれて対決。チームのよだれかけを首から下げて



「駒込ピペットの名前の由来は?」「ランタノイドの中でもっとも早く発見された元素は?」など、一般参加者にも難しい科

学のクイズで競い合いました。クイズ解答時に、コメントを求められるのですが、おもしろいことを言うと点数アップ!ということで、酔いもまわって爆笑連発の企画となりました。

1日目、2日目の夜はいずれも 21:30 で会場が閉まるのですが、それで終わることはなく、外での自由懇親会が 23:00 ごろまで続き、その後、学生棟でさらに続き…。学生の間では、朝の 4 時からカブトムシ取りや、朝の 3 時頃の肝試しなどがあったようです。最終日には、ショートプレゼンテーション、質疑応答、ポスターセッションを通じて優秀であった若手研究者が発表されました。参加者の投票の結果、池羽田晶文さん(関西学院大学理工学部ポスドク)、北隅優希さん(京都大学大学院工学研究科 D1)新澤英之さん(関西学院大学理工学部 D3)の三名が若手優秀賞を受賞され、表彰式が行われました。

企画当初、セミナーが次年度にも継続されるかどうか危惧されていましたが、次年度についてもセミナーを計画することが、

閉会式にて拍手をもって承認されました。その場において、尾崎次期支部長および次期責任者をお引き受けいただく久本秀明先生から、次期開催に向けてのご挨拶をいただきました。

今回のセミナーは、分析化学会近畿支部紀本支部長の強い推進力と近畿支部の皆様の温かいご協力に後押しされ、吉田裕美（京工織大院工芸科学：責任者）、西直哉（京大院工）、諏訪雅頼（阪大院理）、上原章寛（京大原子炉）、山本孝（京大

院工）が世話人となって行いました。予想以上にセミナーを盛り上げてくださいました参加者の皆様、近畿支部の皆様に厚くお礼申し上げます。また、本セミナーの運営は、日本分析化学会近畿支部からの補助金、ならびに合同事務局の才寺さん、河合さんのサポートにより行うことができました。紙面を借りて厚くお礼申し上げます。「ぶんせき秘帖 巻ノ一」責任者 吉田裕美（京工織大院工芸科学）



「ぶんせき秘帖 巻ノ一」

\*\*\*\*\* 日本分析化学会近畿支部 \*\*\*\*\*

あとがき：会員の皆様にはお健やかにお過ごしのことと存じます。さて、猛暑の夏が過ぎ、朝夕の秋風が心地よい季節になりました。ぶんきんニュースの発行も遅れ遅れになりましたが、その分、この号は内容満載になっています。ご愛読ください。(大植 正敏)